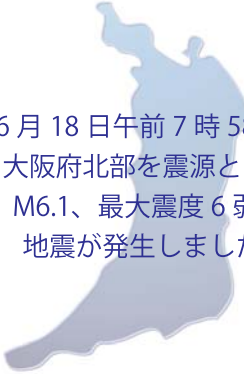


大阪北部地震への対応

6月18日午前7時58分、大阪府北部を震源としたM6.1、最大震度6弱の地震が発生しました。



大阪母子医療センターは、大阪府の特定診療災害医療センターに指定されており、大きな災害時には、平時と同様に大阪府の小児医療、周産期医療を守っていく責務があります。

今回の地震で、当センターには直接的な被害はなかったものの、職員の出勤への影響や患者さんからのお問い合わせへの対応など、少なからず影響がありました。その中で、吹田市にある国立循環器病研究センターNICUに入院中の新生児、重症小児入院患者を受け入れる状況が発生しました。

大阪府では、昨年7月に南海トラフ地震を想定した大規模地震時医療活動訓練、本年2月には近畿地方DMATブロック訓練が行われました。この2回の訓練に当センターも参加しており、訓練を通じて、災害医療関係者の方々と顔の見える関係が築かれていたため、以下に示しますように各部門で冷静にスムーズな対応ができたのだと思います。今回の経験を生かして、地域の皆様と協力しながら、災害に対する備えをさらにしっかりと行なっていきたいと思います。

(新生児科 主任部長 和田 和子)

NICU NICUでは災害対策本部の小児周産期リエゾン(*)と当センターのNICU医師が連携し、当センターのドクターカーを使用して、新生児2名を受け入れました。

*災害時小児周産期リエゾンは、災害対策本部において、災害医療コーディネーターとともに、小児・周産期の情報収集、物資、搬送、人的支援などのコーディネートを担当します。当センターにも2名のリエゾンがいます。


PICU 当センター集中治療科は重篤小児患者受入ネットワークの拠点施設です。

今回の震災に際しても、大阪府庁に設置された災害対策本部の小児周産期リエゾンと連絡を取りながら、国立循環器病研究センターの集中治療を要する先天性心疾患小児12名の搬送に関わりました。

主に重篤小児患者受け入れネットワークを用いて全例の転院搬送調整を行い、3名を震災当日に当センターPICUで受け入れました。

全例、数日後に、状態悪化させることなく無事にバックトランスファーを行いました。

(集中治療科 主任部長 竹内 宗之)



大阪ショートステイ連絡協議会

大阪ショートステイ連絡協議会災害時連絡用グループが大阪発達総合療育センター(本部)を中心に2017年7月から活動を始めています。

今回の地震当日に、患者支援センターより

- ① 各施設の被災状況
- ② 緊急医療評価入院の受け入れ可否の状況

について、「2名の受け入れが可能である」とEMIS(*)に情報入力しました。

本部より自宅が倒壊した旭区の3歳男児の医療評価入院の依頼があり、ベッドコントロールしましたが、最終的には遠方を理由に家族が辞退されました。

(副院長 位田 忍)

*EMIS(Emergency Medical Information System)
・・・広域災害救急医療情報システム

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

診 療 科 の 紹 介

リハビリテーション科

リハビリテーション科は設立5年目の新しい科です。

「リハビリテーション(リハ)」と聞くとなんとなくイメージで理解できると思いますが、当センターのリハ科が一体どのようなことをしているかは、院外から直接紹介患者さんをお受けしていないこともあり、あまり知られていないかもしれません。



リハビリテーション科スタッフ

リハ科の業務は、院内からの依頼を受けて診察を行った後にリハ開始の指示(リハもお薬と一緒に「処方」といいます)を出し、療法士が実施しているリハの進捗状況を管理します。そしてリハを行う目標に達すれば終了の指示を出し、診察で継続的に経過観察します。また、補装具などを作成する際の意見書作成や適合判定も実施しています。

対象とする疾患群

◆運動器術後◆四肢先天異常 ◆脳性麻痺・脳炎脳症後や二分脊椎・脊髄髄膜瘤などの麻痺性疾患◆小児がんや循環器・呼吸器疾患に合併する廃用症候群
など多岐にわたります。

退院後もリハが必要とされる患者さんについては、地域施設と協力して途切れることなくリハ継続ができるよう努めています。

院外に対してなかなか顔が見えない科ではありますが、一人でも多くの子どもたちの機能改善を目指して頑張っています。今後とも応援よろしくお祈りします。

(リハビリテーション科 主任部長 田村 太資)

病 棟 の 紹 介

4階西棟

4階西棟は、主に小児がん患者を対象とし、化学療法や造血細胞移植を行っています。薬の副作用や移植後関連合併症などの身体的苦痛だけでなく、長い入院生活や隔離による行動制限、ボディイメージの変化などにより精神的苦痛を伴うことが多いです。それらを出来るだけ緩和できるように、医師・看護師だけでなく、多職種で患者・家族を支えています。



4階西棟スタッフ

患者は乳児からAYA世代までと年齢の幅が広いため、心理士やホスピタルプレイ士、保育士と共に、患者・家族に寄り添った看護を提供しています。子どもの生活を大切に、特に感染対策については早期から患者・家族に指導を行っています。

教育面では、隔離中であっても可能な範囲で学習が出来るように教員と相談しながら環境を整え、退院前には地域校連絡会を行い、不安なく復学できるようにしています。

ボランティアによる遊びや催しも積極的に企画し、患者・家族が少しでも楽しい時間が持てるようにしています。

最近では受持ち看護師を中心に、きょうだいへの病気の説明や病院案内などのきょうだい支援にも少しずつ取り組んでいます。

また、退院後も長期フォローアップの研修を受けた看護師が継続して介入し、入院中だけでなく、長期にわたり患者・家族を支援しています。

(4階西棟 看護師長 炭本 由香)

産後ケア入院

妊娠、出産、子育ては大きな喜びであるとともに不安や負担も少なくありません。安心して子どもを産み育てるためには、産後の母親と子どもに対する十分な支援が求められています。



当センターの母性東棟では、産後4ヶ月までの方を対象に産後ケア入院を行っています。

入院中はスタッフが専属で担当します。「眠れない」「相談する相手がいない」「イライラする」「おっぱいが痛い、足りているかわからない」「赤ちゃんが泣き止まない」など実際に抱えているお悩みに応じて1日の過ごし方を決めていきます。

乳房マッサージ、ボディトリートメント、ベビーマッサージといった専門的なケアのほか、慣れない育児で疲れたお母さんの休息の時間の確保も大切なケアと考えています。

安心してお母さんが、授乳や育児の相談、そして、こころと身体を癒すことができるようきめ細やかにサポートさせていただきます。（母性東棟 看護師長 西野 淳子）



開催しました

第9回きつずセミナー (2018.8.4)

8月4日(土)、第9回きつずセミナーを開催しました。509名の応募者の中から抽選で選ばれた小学生から高校生までの297名が、AコースからHコースまでの様々な医療職を体験しました。



Aコース：医師体験（手術体験）

毎年人気のAコース(手術体験)は、今年も一番人気で、何と定員30名のところ108名の応募があり、今年も狭き門でした。



Bコース：
医師体験
(内視鏡体験)



Cコース：
医師体験
(救命救急体験)

今回の体験が、参加してくれた皆さんの将来に何かお役に立てれば嬉しいです。

妊娠を他者に知られたくない女性への支援を考える シンポジウム (2018.7.7)

当センターでは、平成23年から大阪府の委託を受け、思いがけない妊娠の相談窓口「にんしんSOS」を運営しています。

この活動に国際ソロプチミスト界が関心を持ってくださり、ご寄付をいただいて、7月7日に国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)で、標題のシンポジウムを開催することができました。

午前中は、漫画・ドラマ「コウノドリ」の小児科医モデル医師である当センター今西洋介新生児科診療主任が「奇跡のそばにいるということ」を、筆者が『「にんしんSOS」と10代の妊娠」を講演しました。



午後は、妊娠葛藤相談所や匿名で出産し児も出自を知ることができる内密出産が法定化されているドイツから講師をお呼びした国際講演や、シンポジウムで特別養子縁組や韓国の取り組み、海外の法的支援について報告いただき、ディスカッションが行われました。

大雨による交通事情で遠方からは参加できなかった方も多い中、377名にお越しいただき、ありがとうございました。

(母子保健情報センター顧問 佐藤 拓代)

第11回 地域連携懇話会 (2018.7.4)

「訪問看護ステーションとの連携」をテーマに地域連携懇話会を開催しました。当日は、7訪問看護ステーションより13名にご参加いただき、当センターへの要望等貴重なご意見を伺うことができました。

また、本年3月より稼働しております地域診療情報連携システム(愛称:南大阪MOCOネット)を訪問看護ステーションにも拡張するために、現場が必要とされている情報等について意見交換しました。

今後、いただいたご意見を参考に共有する情報を検討し、切れ目のないケアを提供するために生かしていきたいと考えております。



「ユニバーサル・ワンダー・プレイルーム」がオープンしました

5月9日(水)、当センター3階東棟に「ユニバーサル・ワンダー・プレイルーム」がオープンしました。このプレイルームは、株式会社ユー・エス・ジェイが、社会貢献事業であるUSJドリームウィバーズ活動の一環として、難病の子どもたちを支援するため、主要取引先と共にチャリティ・ディナーショーを開催され、その収益の一部を当センターに寄附いただき完成したものです。

OPEN!



TM & © 2018 Sesame Workshop
TM & © Universal Studios. All rights reserved.

病気で入院している子どもたちに喜んでもらえるよう、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™の人気キャラクター、セサミストリート™のエルモやクッキーモンスターをはじめ、可愛い動物や鳥、昆虫たちが子どもたちに会いにやってきた、というイメージになっています。

イブニングセミナーのお知らせ (医療関係者対象)

引き続きイブニングセミナーを開催いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

【場所】当センター 研究所大会議室 【時間】17時30分～18時30分 【申込み】不要 (直接会場にお越しください)

日程	テーマ	担当部署	講演者
2018 10/3(水)	小児でよく見る眼科疾患	眼科	遠藤 高生
11/28(水)	無痛分娩	麻酔科	橘 一也
2019 1/23(水)	画像診断 (仮)	放射線科	西川 正則
2/7(木)	こどもの長引く咳、くり返す喘鳴	呼吸器・アレルギー科	錦戸 知喜
3/6(水)	小児の遺伝医療：健康管理と遺伝カウンセリング	遺伝診療科	西 恵理子

大阪府医師会
生涯教育
研修システム
1単位に
認定されて
います。



交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890 (直通)

FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113 (直通)

FAX：0725-56-7785

【医師相談窓口】 MAIL：chiren@wch.opho.jp

医療者対象
ホットライン

(※24時間受付直通)

【PICUホットライン】

☎ 0725-56-1070

【小児がん・
白血病ホットライン】

☎ 0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。